部　会　会　議　録

周南市まちづくり総合計画審議会・第１部会　第１回	
日　時	平成１６年８月５日（木）１０：００～１２：０５
場　所	周南市役所第２応接室
出席者	委員　１１人
	天野部会長、谷野委員、田村委員、磯崎委員、内山委員、宮本委員、小林委員、船委員、山本委員、毒島委員、戸倉委員、
	事務局　１２人
	田中教育長、山下企画財政部長、滝本教育委員会総務課長、海老原学校教育課長、松谷生涯学習推進課長、宮川企画調整課長、企画調整課（藤井、坂本、三川）、新南陽総合支所地域振興課（石川）、熊毛総合支所地域振興課（中村）、鹿野総合支所地域振興課（小田）
資　料	第１回審議会会議録、部会会議録サンプル、基本計画参考資料（関連統計データ）

会　議　内　容

１．事務局からの連絡

（１）会議の公開：全体会、部会ともに会議は公開とする。

（２）部会の会議録：サンプルのような要点筆記で作成する。

２．審議

（１）目標１の項目建てについて

（部会長）今日は、目標１の内容について審議したい。

　まず、目標１には６つの項目があるが、構成や並びについてはどうか。こういう形でよいか。例えば、国際化への対応はここの「心豊かに」のところでよいか。

（委員）他にふさわしい場所も見当たらないのではないか。

（部会長）それでは、この６項目を前提に、各論に入って行きたい。

（２）「１．青少年の健全育成」について

（部会長）現況と課題について何かあるか。私の印象は、青少年犯罪の増加、犯罪の低年齢化など一般論が書いてあるが、周南市では比較的そうなっていないと理解するが、皆さんは。

（委員）青少年の育成を考えたときに、これまでの教育の歴史をみても「心の教育」ということが言われてきた。一番大事にしなければならないことである。それも大切であり、青少年を取り巻く環境をどう整えていくかということももちろん大事だが、学習をしっかりやって、勉強ができるようになって学校に行くのが楽しいということになれば、青少年犯罪や非行も減ってくるのではないか。２番目の学校教育の充実というところから、青少年の健全育成に結果としてつながるのではないかと思う。

　現状を見渡すと、周南市はまだまだ素直ないい子が多いなと感じる。以前、小倉や大阪に住んでいたが、そうしたところでは若者はたいへんな状態である。周南市ではそこまでではないと思うだ

けに、より一層学校教育の充実のほうをしっかりやって、高校生活が楽しいと思える高校生が増えれば、健全に育ってくれるのではないか。

（委員）学校での教育で言えば、先生方の経験不足が目に付くような気がする。先生を通して子どもが、というのではなく、子どもから先生が教えられているというようなこともときどき見受けられる。そうすると先生がパニックになってしまって、前に進まなくなるというような状況がある。そこから、先生とのコミュニケーションがうまくいかなくなったりして、非行に走ったり、学校がおもしろくなくなったりするような状況も見受けられるかなという気がする。

（委員）学校教育もそうだが、家庭教育も大事である。離婚などで、単身の親の家庭がすごく多く、それが悪いというのではないが、そこで抜けている部分もあるような気がする。

　また、お母さん方が働きにでることも多く、忙しいというのもあるが、子どもに目が向いてないのではないか。家庭での教育というか親の教育を基本にしていかないと、いくら学校ががんばっても、家庭との連携がうまくいかないと無理である。

（委員）同感である。地域で子どもを育てていくということを考えたときに、家庭、学校、それぞれの役割があり、それぞれ重要である。

（委員）家庭教育出前講座というビラをみたが結構行われているのか。

（委員）学校からの要請でいくことが多い。小学校新一年生の親に対する心構えなど、たとえば入学してからこういう問題がありますよ、というようなお話をしている。

（部会長）今のお話を聞いていると、現況と課題としては、世の中全体と比べると周南市はまだ大丈夫だけれども、この間に何かやっておかないといけないことがある。特に、「コミュニケーション」、学校の中でのコミュニケーション、家庭でのコミュニケーション、そういうものをしっかり図っていかなければならない、また、子どもと親のコミュニケーションと同時に、家庭と学校、学校同士、それと地域でのコミュニケーションを図っていくということが必要ということだったかと思う。

（委員）推進体制にしろ、地域の教育力の充実にしろ、それを進めていく人材がいない、少ないという気がする。この計画の中に、人材を養成するという部分があまりみられない。人材さえいれば各地域も元気になれると思うし、地域の教育力、家庭の教育力の向上も進むのではないか。特に地域の教育力ということがずっと言われてきたが、人材養成もあるが、もうひとつには地域の高齢化の問題がさけて通れないだけに、一生懸命やる人材もだんだん少なくなっているという現状がある。青少年の健全育成に対する全体的な取り組み、予算的にも人的にも供給できないというスタイルになるともっと悪くなるという懸念を持っている。それを払拭するためには、ほんとにみんなが取り組むという姿勢、組織もそうだが、予算も潤沢にして取り組んでいかないと、本当の意味での健全育成につながらないのではないかと思う。

（部会長）「地域の教育力」という考え方について何かご意見は。

　二つ気になることがあって、一つは地域の教育力といったときに、地域の大きさをどう考えるか、たとえば、こどもの行動範囲ととらえるのか、あるいは学校の単位ととらえるのか、もうひとつは、人材という話があったが、リーダー的な人材ということなのか、広がり、ネットワークがいるということなのか。

（委員）これからの時代に、子どもたちに健全に育ってもらうことが大切だと多くの人が考えていて、各地域ではいろんな方がいろんな形で活動されていると思う。子育てサークルなどもちょっと調べてみると、いろんなところで点の活動として行われている。地域というのは、私は周南市ということでいいと思うが、この周南市という規模の中で、いろんな点の活動として、子育ての支援をして

いこうという取り組みをしているグループの情報をどれだけ共有できるのかということが大切ではないか。コミュニケーションを図っていくためには、情報がとりやすい仕組みを考えなければならない。

例えば、学校の中でもクラス間での先生同士の情報共有はどうなのか、あるいは学年間、小学校、中学校、高校の情報共有はどうなのか。同じ地域にありながら、そこの情報共有が非常に弱いのではないか。

学校とか民間とかそういう垣根を取り払って、情報をうまく共有できるような仕組みがあれば、それぞれ活動しておられる方々は、目的は一緒なので、似たような活動をしておられるグループ同士で一緒にイベントをやったり、点の活動が線になり、そして面になる。そこで地域の教育力が向上するのではないかと思う。地域の情報共有の仕組みを考えることが大事ではないか。

（部会長）それはだれが作ればいいのか。

（委員）昨日も元気こども室で市民会議があったが、そこから情報発信していろんなつながりを持つことができればという話があった。

（部会長）元気こども室の役割として、何かを自分でやるのではなく、点の活動をコーディネートし、まとめていき、情報を流すことであると、こういうことか。

（委員）「こどもまつり」などにいろんな人が巻き込めたらいい。関ってみたいと思う人もいると思うが、いつどこでそんなことをやっているかというような情報が少ないように思う。

活動されている側の方が横の連絡を密にして情報を共有するということがまず必要ではないか。

周南市の子育てを考えるグループなどで、推進プロジェクトチームなどを作っていけば具体的に動いていくのではないか。「青少年健全育成プランを策定し、～推進に努めます」ということが書かれているが、推進してくためにどうするかを考えていく必要がある。

（部会長）事務局ここまでで何かあるか。

（事務局）高齢化などの状況で、人材などを含め、地域の教育力が課題となっている。「まちのせんせい」などの制度に取り組みながら、いろんな意味での地域の教育力の強化を図っていきたい。

（委員）子育てサークルのお母さん方は責任が重い。自分の子どもを育てながら全体の連絡をとったり、皆をまとめたり。そういった負担を解消するために、代表の方が集まって情報共有ができるような場があればよいのではないか。実際にそういう取り組みの例が、山口市のプチネットというグループ。子育て中のお母さんの支援や子育てを終えられた方との交流なども進められている。いい事例なので周南市でもそういう組織ができれば。

また、駅ビルの市民活動支援センターには情報がたくさんある。その情報を取りにいくかどうか。情報を一生懸命発信しても目に留まるかどうか。

例えば、イベントの情報などにしても、学校で子どもたちを通じて家庭に流してもらえるようなシステムができれば、もっと情報がお母さん方に届くのではないか。

最初はイベントに参加するだけでも、だんだん運営の立場で一緒に参加したいと思うような方も増えてくるはず。そういう部分を支えていかないといけないのではないか。

（部会長）学校を通じての情報の伝達というのは、なかなか難しいところがあるように思う。学校は教育だけでもたくさんやることがあるはず。ダイレクトにお母さん方に伝わるということが必要。

（委員）お母さん方の中には、熱心に地域の子ども会活動などにかかわられる方と、そうでない方にわかれる。お母さん同士のネットワークがない方に対しても、学校ではなくて、市が直接ダイレクトに情報を伝えるというようなことを打ち出せないか。

（委員）情報発信の手段としては、文字情報や映像情報があるが、そのほか、人を通じての人とのつながりの中での情報伝達もある。

元気こども室が中心となって、健全育成についてこういうことを推進していきますということで、そのプロジェクトメンバーを募集します、というように人を募ってはどうか。

（委員）子どもを育てる親に対する支援という視点をどこに盛り込んだらいいのか。ここでは、どこにも出てきていないような気がする。子どもを生む前を含めて、子育てをする親に対する支援ということが必要では。

（委員）ここでそもそも「青少年」というのがどの範囲をいうのかということもある。最近では０歳から含めて考えようというのが主流になってきているようだ。これまでは、３歳児くらいまでは福祉のほうに入れようということが多かったが。

（委員）項目の分け方が、青少年健全育成がきて、幼児教育、義務教育、高等教育、生涯学習と、こういう分け方でいいのかどうかとも思う。

（部会長）基本計画ではそういう項目になっているが、基本構想では、青少年の健全育成をどちらかというとマクロな観点でとらえており、今まで話のあった、地域の教育力をあげようとか、コミュニケーションをどう深めていくかということについて、特に、コミュニケーションというのがキーワードという気がするが、こうしたことが青少年の健全育成のところに書かれていればよいのでは。

次の教育のところは、幼児教育、義務教育、高校教育と別々になっているが、大くくりにして、基本構想の並びにあわせるともう少しすっきりするかもしれない。

施策の内容については、今のような議論を踏まえて、追加するべきことがあれば、次回までに意見として出してほしい。なお、施策は、市が実施することということで考えてほしい。

（３）「２．幼児教育」～「５．高等教育機関」について

（部会長）「５．高等教育機関」のところに、「オープンカレッジやサテライトカレッジなど、公開講座の開催によるリカレント教育を促進します」とあるが、言葉の定義としてリカレント教育とは、こういうイメージか。むしろ、もう一回大学に入り直すというイメージではないか。一言で言うと、スキルアップであり、一般教養、生涯学習とは異なるものと理解している。リカレント教育を言おうとしているのであれば、もう少し違う視点で、市がやるとすれば、そういう者に対する奨学制度やリカレント教育に出す企業に対する支援といったことになるのではないか。

（委員）「２．幼児教育」のところに関して、乳幼児が減少している中で、施設は余ってくるのか、もうちょっといるのか、そのあたりの見通しはどうか。

先日、ある保育園で聞いたが、ほとんど余裕がないという状況だったようだが。

（事務局）幼稚園については、公立・私立であわせて 28 園あるが、園児も逓減傾向にある。ただし、保護者の教育に対する前向きな姿勢もあり、それほどの減少にはなっていないのが現状である。施設的には若干の余裕がある状況。

保育園については、関連データのｐ13 でお示ししているように、園児は増加傾向にある。両親の共働きの増加や第２子目以降無料化の全市域への拡大に伴うものと思われる。

また、保育園については、昔は選べなかったが、今はどこの保育園に行きたいかということも選べることから、たとえばスイミングクラブと連携したり、特色をだしているところもあり、園によって入所の状況に差がでてくるということもある。

（委員）お母さんがストレスを解消するために、自分の時間を作るために、保育園に入れられたとい

う話も聞いている。それが全て悪いということではないが、そういうことから家庭の教育力の低下にもつながるのではないか。行政でももっとお母さん方をバックアップしてあげて、できるだけ４歳ぐらいまでは家庭で一緒に過ごせるようになればいいのだが。

（部会長）ここは「心豊かに暮らせるまちづくり」というイメージの中での学校教育のとらえ方になるが、その観点から見て何か現況と課題で気になることは。

ここでの教育というのは、例えば社会に出て働くためとかいうことではなく、心豊かに育つ手段としての教育という観点でとらえられている。それは結果として心豊かであれば社会に出てもやっていけるであろうということだろう。

（４）「６．生涯学習」について

（部会長）生涯学習のニーズは現在、周南市の場合どうなのか。

（委員）勉強したいという人は多いと思う。ただ、オープンカレッジなどでたくさん講座をやられているが、参加したい講座があまりない。生涯学習だからということでやわらかい趣味のようなものになっているが、もっと専門的なことを学びたいという人もいる。ニーズとのミスマッチがあるような気がする。また、開催時間なども参加しやすいようなものになれば。

（部会長）勉強したい人のニーズの把握はどのようにすれば。

（委員）それが難しい。やり方だが、行政がこんなのはどうかというのではなく、こんなのをやりたいから講師を紹介して、といったような市民からあがってくるようなシステムをつくっていく必要があるのではないか。

それと、今までは、どうしても人を集めやすいということで趣味の延長のようなものが多かったが、そのイメージをそろそろ変えて行ってもいい時期なのかもしれない。そういう意味でも、ニーズをどう把握するかということを真剣に考える必要があるだろう。

（委員）市だけでなく、商工会議所や学校やその他いろんな団体が講座の開催等を行っているが、一つの情報で「これだけ学ぶ場がある」ということを流すような、行政ではそういう情報のコーディネートができればよいのでは。

（委員）公民館にはいろんな情報が置いてある。講座もたくさんある。先ほどの「市民からあがってくるような仕組み」についても掲示板などを活用して取り組みがされている。一番身近な情報源は公民館ではないかと思う。

（委員）公民館も既に今までに立ち上がった趣味のサークルなどでいっぱいの状況。そういうある程度活動が軌道に乗ったところにはどんどん外に出てもらって、新しい学習グループなどを入れて育てていく、というようなことが、これからは必要なのかもしれない。

（委員）子どもが幼稚園や学校に通い始めれば、ＰＴＡなどで地域とのかかわりやネットワークもできてくるが赤ちゃんを抱えているお母さん方、その年代が一番情報から遮断されているのではないか。なかなか公民館にも行きにくい。また、参加するにも子どもを預けないといけない。そういうお母さん方を支援していくことが必要ではないか。

（委員）最近では、インターネットを活用して、ネットワークを広げている若いお母さん方も多くなっているようだ。

（部会長）確かに子育てなどでなかなか外に出られないという人がいるということはあると思うが、それを支援することと、生涯学習を支援するということがイコールかどうか。むしろ生涯学習の問題ではなく、福祉の問題であって、福祉が充実して、外に出られるようになれば、ある人は生涯学

習に行くだろうし、ある人は他のことをするだうし。ただ、そうしたこともあるというのをここで触れておくということはあると思うが、施策としては違うような気がする。
（部会長）ここで、生涯学習と趣味はイコールか。例えば、パンを焼くということは生涯学習か。
（委員）今はそうとらえられているのでは。
（部会長）生涯学習とは、教育以外の学習という意味か。
（委員）地域の共育力の向上なども入っているので、範囲がわかりにくい。
（事務局）ここでは、教育委員会の生涯学習課の担当している広い意味での生涯学習のことが書かれている。生涯学習というものが単に大人だけのものではないということで、青少年の健全育成にもからんでくるが、そういうことが書いてある。ここにあげた意義もある。
（部会長）青少年のための学校以外の学習は、青少年の健全育成に入れたほうがよいのではないか。青少年の健全育成があって、学校教育があって、そのあとに生涯学習が来るという観点からすると。
　先ほど、なぜ、生涯学習と趣味は一緒か、と言ったかというと、学習には「意欲」と「苦しみ」が必要であると思う。そこが趣味と違う部分だと思う。
　青少年の時代には、地域で育成し、学校で育成し、そして、学校を卒業したら、自分が意図しないとできないわけだから、それについては、意欲ある人が学習に参加できる仕組みを作っていくということではないか。
　施策の仕切りと組織のこともあると思うが、ここではそういう形にしておきたい。

（５）「７．芸術・文化」について

（部会長）「文化の育成」というのは、文化は育成するものかという点で少しひっかかりがある。
　また、先ほどの趣味の部分は、こちらに入ってくるのかもしれない。
　周南市の伝統文化というと。
（委員）三作神楽とかさんさ踊りとか。
（部会長）保存会のあるようなものもあるのか。
（委員）あるものもある。さんさ踊りなどは独特の節回しを地域で保存していこうということでやっている。
（部会長）そういうものを学校で見る機会はあるのか。
（事務局）伝統芸能の継承ということで、ふるさと学習の一環にもなるが、各学校が受け継いで、地域の人が学校で子どもたちに教えて、運動会や文化祭でやったりしている。また、郷土芸能大会という一同に会した発表会もある。
（委員）各地域では一生懸命がんばって伝えていくにも、資金的なこともありたいへんなようだ。評価がお金にかわる仕組みも必要である。
（部会長）市外に発信する機会はあるのか。
（事務局）先程言った郷土芸能大会がある。また、有名な団体になると外から呼ばれることもある。
（委員）保存会同士での交流もあるようだ。
（部会長）今話のあったことは、現況のところで何か書き込んだほうがよいのではないか。
（委員）発表の場を持つことが大切。また、その情報を発信することも重要。先日イベントをやったときに、さんさ踊りの団体に出てもらったが、せっかくいいものだったのに、残念ながらわずかな人しか観ていなかった。情報を発信する仕組みも必要。
（委員）今眠っている文化財には伝承するものがたくさんあるはず。地域出身の偉人や昔話、遊びな

ど。年配の方が元気なうちに情報を集めることも大切ではないか。
（事務局）本としてまとめたものもあるが。
（委員）それをどうＰＲしていくかも重要。本にしておくだけでは意味がないので。どこまでやったらいいのかということもあるが、伝統を伝えていく役割はあると思う。
（部会長）ちょっと整理したい。「心豊かに」という中での「芸術・文化」であるので、文化財の保護が目的でもないし、芸術家を育てたいという目的でもないように思う。むしろ、芸術や文化に一般の人が触れる機会を増やそうということが主な目的になるのではないか。そのためになにができるかという観点での議論が必要。
（委員）文化会館は、地方で歌舞伎を見ることができたりとても貴重だが、料金が高い、使い勝手が悪いという話も聞く。
（事務局）広島と福岡との中間の施設でもあり、いろいろと公演の売り込みもあり、使用率は高い状況である。歌舞伎やオペラなどで、スターピアとは住み分けをしながら、工夫してやっている。
（部会長）先程、何かやっても人が集まらないという話があったが、何が原因と考えられるか。
（委員）情報としては、記者クラブへの投げ込みや地元のＦＭ局でも流したが。
（部会長）青少年の健全育成のところでも、情報が足りないという意見がでた。そこでは、みんなこういうことがしたいのにうまく情報が伝わっていないという感じだったが、今の場合も、みんなが観たいのに情報がないという状況なのかどうか。それとも観たいという人が少ないということなのか。そうだとしたら、観たいと思う人が少ないのに、なぜ一生懸命見せる必要があるのかということを考えないといけないのでは。
　全体としても、「何のために」ということを考えたときに、優先順位が決まってくるのではないか。
（委員）「心豊かに」ということを考えたときに、青少年の健全育成に集約するかもしれないが、子育てや教育、この地域でどんな子どもを育てたいのかということを前面に出すことが必要ではないか。その子どもたちを育てるために何をしたらいいか、芸術・文化にかかわる人かいたら、それを子どもたちに伝えることでこんな気持ちになってもらいたいとか。そういうわけ方ができないか。
　文化・芸術に関して言えば、日常生活の中で必ずしも必要な情報ではないので、この中では強いて言えば優先順位は低いのではないか。
（部会長）芸術・文化に我々がもっと親しまなくてはいけない理由というのは、心豊さという観点からいったい何なのか。芸術文化に触れる機会を増やすことによって、どう心の豊かさにつながってくるのか。そう考えるともう少しやるべきことが見えてくるのではないか。
（委員）私は、文化は生活だと思う。今あることが大切。それを振り返る糧にする施設が資料館であるはずで、歴史を知ることで今の自分があるという部分で必要である。
（部会長）自分のステイタスの確認ということか。
（委員）それと先程も話があったが、今集めておかないと、なくなってからでは遅い。今生きている人が少しずつ努力をして後世に伝えていくという必要があると思う。
　郷土資料館にお年寄りを連れて行くととても喜ばれる。それが若い世代にもつながっていけばうれしいのだが。三世代交流的なイベントを考えていく必要が、この伝統文化のところではあるのではないか。そういう仕掛けがいるのではないか。
（部会長）一つ出てきたが、そういうふうに施策が出てくるのではないか。
（部会長）私は、ここに生きている、住んでいることの誇りではないかと思う。文化の香りが高いところに生きているということに対する誇りというものがあって、外と話をする、外に向けて何かを

発信するときの自信になるのではないか。そういうようなことが文化とか芸術の香り高い地域を作ることの意義ではないか。そのようなことを現況と課題のところに書き加えたらどうか。そうすると先程の三世代交流とか具体的な施策も出てくるのではないか。

（7）「８．スポーツ・レクリエーション」について

（委員）スポーツ施設で総合スポーツセンターなど立派な施設はあるが、お盆が休みなのが困る。お盆などお休みのときのほうが利用希望が多いのではないか。また、人が集まるイベントなども誘致しやすいはず。

（委員）職員の人件費などの問題もあるのかもしれない。ただ、できないことはないわけで、そうしたことは、市民の要望としてあげていくようなことが必要か。

（委員）やはり教育もそうだったが、スポ少など、幼児、小学校の部分が基本になってくる。そのためには、指導者の育成が大切。経済的にも自立できるような環境をつくってあげられれば。

　また、学校の垣根を越えたスポ少ができていくようなことを、地域ぐるみで考えて取り組んでいくことが大切。総合型地域スポーツクラブの設立を考えているような方もいると思うので、そういう方の掘り起こしを含めて体育協会などと連携しながら進めていければよいのではないか。

（委員）総合型地域スポーツクラブの設立を支援するということがあがっているが、そのあたりの動きはあるのか。今からの取り組みということか。周南市でうまくいくのかという思いがあるのと、どういう展開をしていったらということのイメージがわかないので。

（委員）特定非営利活動法人をイメージしているのか。由宇町でも地域のセンターを中心にそういう取り組みがされているようだが。

（事務局）生涯スポーツが言われて久しい中で、だれもがスポーツに親しめる環境づくりという中で、地域の総合型でそういうことを進めていこうということでの将来に向けての方向性としては大切だと認識している。

（委員）子どもからお年寄りまで全てを対象に総合型地域スポーツクラブで、というのは無理がある。同じ小学生でも、楽しみたい子もいれば、がんばりたいという子どももいるわけで。スポーツのニーズに対する受け皿を整えるということかもしれないが、明確性を欠くようなものであれば、思い切って削除してもよいのではないか。

（部会長）資料があれば、次回に用意していただきたい。メリットや施策としてやるとすればどこにネックがあるかなど。

（8）「９．国際交流・地域間交流」について

（部会長）なぜ、地域間交流がここに入っているのか。国際交流については、世界に対する理解を深め、いろんな世界の人との交流の中で、自分のアイデンティティがわかるというところで「心豊かに」ということに通じるところがあると思うが、地域間交流というのは「心豊かに」ということとダイレクトにつながらないような気がするが。ここは国際交流だけでいいのでは。地域間交流をどこかに入れなければいけないのであれば、どこか他のところに移すかどうか。

（委員）交流という視点で、久居市との子どもたちのスポーツ交流もあるのでここにあるのか。観光なのかなという気もするが。

（部会長）芸術・文化に入れてはどうか。

（委員）姉妹都市はアジアにはないのか。

（事務局）商工会議所や民間事業所ではそういうアジアとの交流の動きもあるが、市として姉妹都市提携の動きは今のところない。
（委員）国際協力というと範囲が広いが、どのへんを検討していくのか。
（部会長）条約を結ぶとかそういう意味か。あるいは、国際支援活動に対して支援をするとか。
（事務局）市町村のレベルで国際社会の中で何ができるかということを、常に世界の中の周南市であることを意識して、ということ。
（部会長）ではそう書いたほうがいいのでは。市として国際社会に貢献する道を探していきます、と
（委員）具体的でなければ、削除して、まとめてもよいのでは。ただ、国際化に対応したまちづくり（基本構想 p26）というのもわかりにくい。
（部会長）国際社会の一員として役割が求められています、ということもさることながら、ここでは、国際化に対応したまちづくりが、心の豊かさのために必要であるということが、現状と課題のところに必要ではないか。国際的なものにふれることによって心が豊かになるといったような。

（９）構成等について（今までの議論を踏まえて）
（委員）やはり表題の「心豊かに暮らせるまちづくり」というのがよくわからない。誇りという話が出たが、周南市に暮らすことが誇りに思えるような教育と文化と人づくりというような、何かもう少しわかりやすく簡単にできないか。
（部会長）「元気で輝いているためには、心の豊かさが大切である」ということはいいのだか、元気ということと心の豊かさとの間をつなぐものがもう一文何か必要なのかもしれない。心豊かになることでどうなるのか。そしてそうなるから輝けるということが、もう少し自然に教育や文化につながっていくような。「新しいものに常にチャレンジし学ぶという住民の姿勢があって、市がそれに応えられて、周南市に住んでいることはこんなに自分にとっていいことなんだと思えて、というようなことがあって、元気で輝けるんだ」というようなことが書き込めれば。
（委員）（基本構想 p24 と基本計画の p2 の）ここの５行のところに集約されてくる。心豊かであるために、何か必要かということで、このため以下が大事になってくる。それを具体化したものが、各項目になってくる。
　ここで、子どもを主語に置いていることと、大人を主語に置いていることが、その重なり合っている部分は、子どもを主語に置いたほうがいいのではないか。子どもたちにこの地域でどう育ってもらいたいのか。そのために大人はどう協力するのか。大人自身もそういう人間になり得るように生きて行こう、と。そのためには大人にもこんなことがあったらいい生き方ができる、とそういう風にすれば、ここの５行がもっとすっきりするのでは。
（委員）前期の計画だから、前期としての内容を施策の方向性あたりで書き込む必要があるのではないか。大きな具体的なものがあれば、それを書くことで前期としての特徴がでてくる。そうしないと前期と後期の計画がまったく同じになってしまう。
（部会長）計画に書き込んだことができなかったら責任をとらなくてはならないかもしれないが、計画なんだからこれはやりたい、やるつもりなんだいうのがあれば書き込んで、５年後にチェックされないといけないのではないか。チェックの結果不十分と言われたら、なぜできなかったかということを次の計画に反映させることが必要。
　おそらく審議会の委員の皆さんも、書かれてないことがどんどんやられるよりも、書いてあることが一歩でも前に進んでいくほうが、満足感は強いのではないか。仮にできないことがあったとし

ても。市としてやりたいことはできるだけ具体的に書き込むという考え方でやっていただければと思う。そうすれば、われわれも応援しやすいと思う。

（委員）実施計画が見えないために理想的な姿だけを見て審議していくので難しい部分もある。事業計画を組んだときに、評価システムを組んで、ほんとにこの目的を達成するために、今年度は何パーセント達成したか、年々評価を加えていっていい方向にもっていってほしい。

（委員）振り返りが可能である目標が大事である。また、いつまでにという日付をつけるということも大事。そういう部分がより具体的になれば。

（部会長）すべてに日付を付けるのは難しい部分もあるとは思うが、せめて、市がやる部分、基本方針を定めるとか、市で体制をつくるとか、そういう部分にはあってもいいのではないか。